

2021年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1980年から行っており、2021年は7月7日、8月3日、9月7日に桁網（水工研II型）を用いてつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-217尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は7月7日に水深5mで30-39mm、10mで20-39mm、8月3日に水深5mで40-59mm、水深10mで30-49mm、9月7日に水深5mで50-59mm、10mで50-69mmが主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2021年は113で、1980年以降の平均値148を下回る水準でした（図3）。

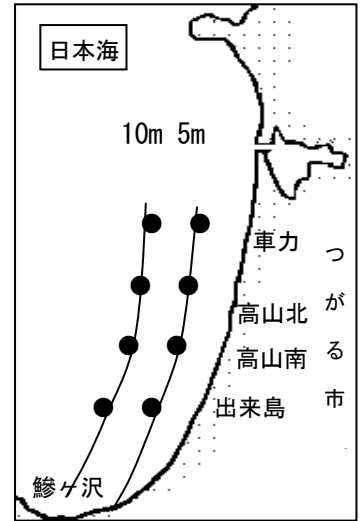


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海		(個体/1,000m <sup>2</sup> )										
調査月日/調査点	水深	5m				10m				5m	10m	底層水温
		出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	平均	平均	
2021.7.7		36	217	62	131	32	70	58	36	106	48	21.0-21.2
2021.8.3		174	166	18	137	155	119	73	34	113	91	25.5-25.9
2021.9.7		28	98	46	57	8	34	11	0	61	13	22.8-23.5

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

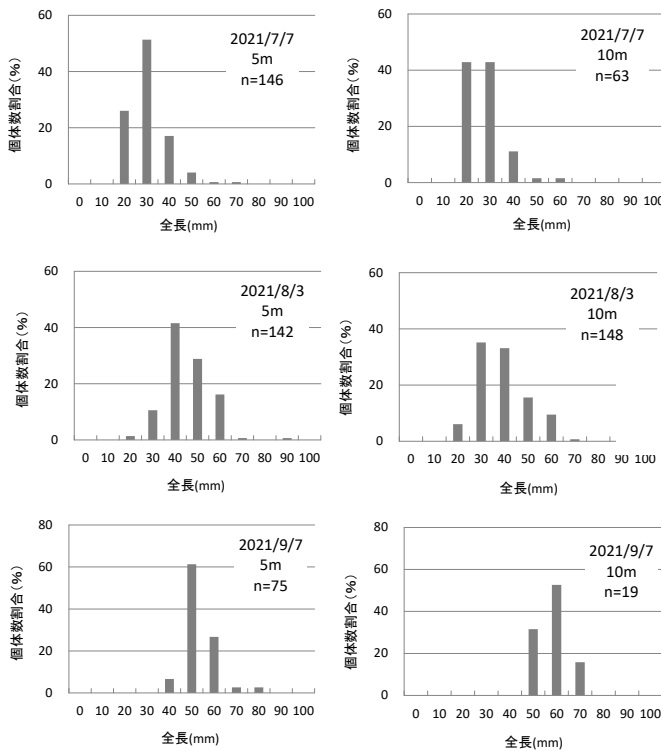


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

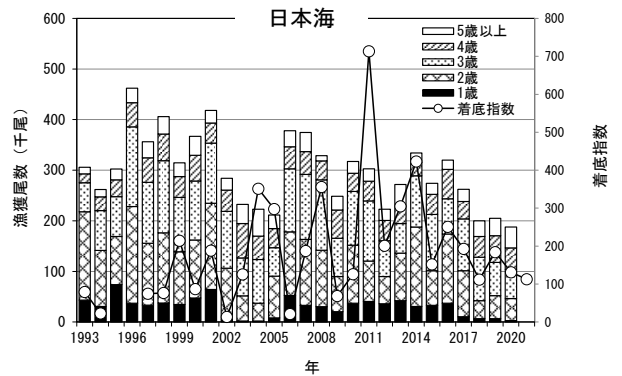


図3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移